

# フラワータウンにおける 特定外来生物オオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* の分布



自然・環境再生研究部 生物資源研究グループ

橋本佳延

オオキンケイギクは明治中期に持ち込まれた北米原産の多年草（写真1）で、法面緑化などに多用されてきました。しかし、繁殖力が強く生態系への悪影響が強いため、2006年に特定外来生物に指定され、栽培や生きたままでの移動が法で禁じられました。フラワータウンでは、少なくとも1999年までには法面緑化に利用されていました。

2021年6月にフラワータウンでの本種の分布を調べたところ、法面で大群落となっている（写真2）だけでなく、道路の植え舂やコンクリートの隙間、中央分離帯、道路脇などへも侵入・定着し、さらにフラワータウン周辺の農地へと広がっていることが

分かりました（図）。

このように、都市のような人工的な場所で植栽されたとしても、わずかな環境を利用して外来植物は分布を広げ、在来生物が豊かな環境へと侵入する可能性もあるのです。



写真 オオキンケイギク（キク科）  
*Coreopsis lanceolata*



写真 道路法面で群落状に広がる  
オオキンケイギク

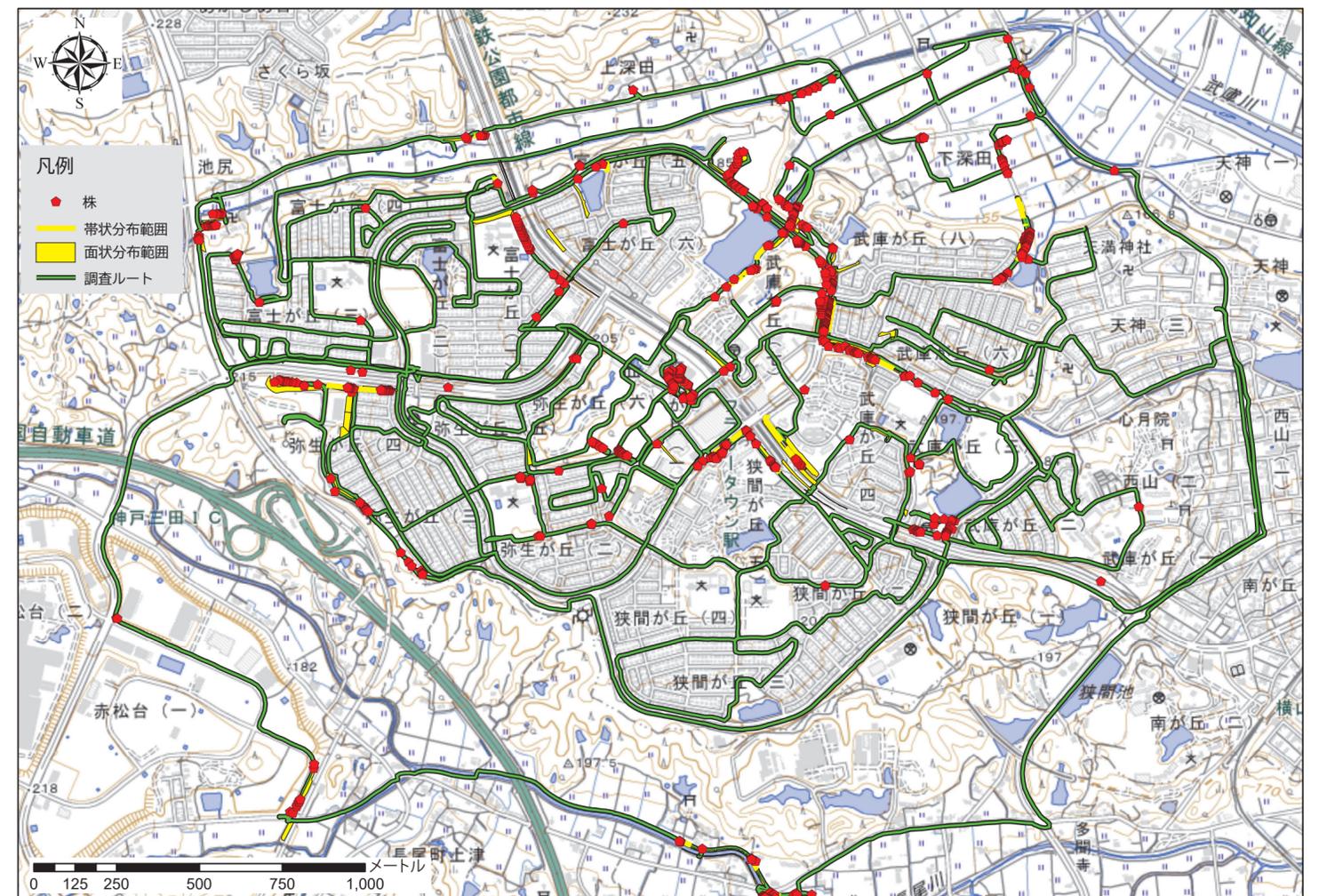


図 フラワータウンおよびその周辺のオオキンケイギクの分布状況